

日本臨床薬理学会海外研修員報告書

-その 3(研修経過報告書)-

永田総一郎

研修先：Yale University, Internal Medicine, Section of Nephrology

はじめに経過報告が遅れたことお詫び申し上げます。2021年9月から始まった海外留学も早1年半が経ちました。なかなかいい結果を得られていませんが、毎日12時間昼夜土日問わず奮闘しています。

私生活では約2年ぶりに休暇をいただき、家族でFlorida旅行にいつてきました。2歳児と1歳児を連れた旅行は休暇と言えるかわかりませんが、束の間の研究から離れた時間を持つたことは何事にも変え難いものでした。

さて、APOL1プロジェクトですが、昨年9月に提出したRNA-seqは良い結果が得られませんでした。RNA-seqはnon-bias、客観的、網羅的にみられる利点がある一方で、不安定なモデルでは良い結果が得られにくいと感じました。近年、研究方法は大きく発展、変化したと思います。仮説が先立ち、それを立証するための実験はどうしても主観的になってしまい、微細であり意義のない結果に焦点がいきがちです。結果として再現性がなく、臨床的意義の乏しい報告となっているのが現状だと思います。今後はbig data、特にhuman dataを解析することで得られた予想外の結果を、動物、細胞実験で立証する研究手法が必須であると確信しています。最終的にはPublic dataを自己解析し、臨床的に有意義な研究テーマが見つけれられるように残りの留学期間中にBioinformaticsの習得に励みたいと思います。

いままでの実験結果は論文報告からは程遠いところにいますが、幸運にも今年は大きなgrantをAPOL1関連で2つ獲得することができました。臨床薬理学会からの支援は2年間で修了しますが、この成果を生かし、研修期間終了後は他のグラントの支援を受けて研究を続けていきたいと考えています

これからおそらくあと3年半で良い研究報告ができるように毎日精進したいと思います。